

じやりみち

原本

……仮設支援情報……



第44号 発行日 97.10.23

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 / FAX: 078-578-6923

E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

区画整理の更地にコスモスの花が揺れる季節となりました。自然に乏しい街中でも、軒先からキンモクセイの香りが漂ったり、駅前に柿売りの露店が出ていたり、それとなく秋の雰囲気を感じるものです。「食欲の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」……今年の秋はどんな秋になるのかな。

先月からの事務局の動き

9/23(火) 「もやい」イベント「もやいまつり」
演劇キャラバン「てくてく」(兵庫区・済麟寺)

9/24(水) 全体会

9/25(木) 福田、支援者ネットワーク会議参加

9/26(金) 全国キャラバン写真展
(埼玉・緑が丘高校)(~27日)

9/27(土) 事務局会議

9/30(火) ひかるお疲れさん会(兵庫区・酒えん)

10/ 1(水) ざつくばらん

10/ 2(金) 新聞労連視察受け入れ

10/ 3(土) 村井くん、
朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)訪問(~11日)

10/ 7(火) 阿木中学校(岐阜)、
川口東高校(埼玉)視察受け入れ

10/ 8(水) 全体会

10/ 9(木) 「もやい」ミーティング

10/10(金) 福田、世田谷雑居まつり(東京)参加

10/14(火) 演劇キャラバン「てくてく」
(北区・有馬グランドホテル)

10/15(水) 「もやい」イベント
「チャリティーふぐ鍋」

10/16(木) 全日本仏教会(全日仏)記念行事バスツアー

10/19(日) 村井くん、

「全国ボランティアフェスティバルやまぐち」(山口)で講演

10/20(月) 事務局会議

10/22(水) 事務局会議/全体会

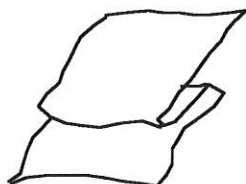
10/23(木) 北朝鮮緊急支援報告会(中央区・神戸YMCA)
「じやりみち」44号発行

10/24(金) 小野南中学校(兵庫)視察受け入れ

10/25(土) 「もやい」ミーティング

10/29(水) ざつくばらん

10/30(木) 村井くん、北朝鮮支援報告会(大阪)



「一本のタオル運動」にご協力ください!!

タオル一本で被災者支援

「一本のタオル運動」とは、家庭で眠っている新品のタオルを寄贈していただき、それを被災者の仕事づくりに役立てようとするものです。

はじめは雑巾に仕立てるつもりで試作品を作っていたのですが、西宮の仮設住宅のおばちゃんのアイディアから、そうさんをかたどった手拭きタオル、「まけないぞう」タオル(右の絵)が誕生しました。

手拭きタオルを作って下さる方には制作費を支払っており、多い人では月5万円くらいの収入となり、作っていて楽しく、やりがいのある仕事に発展しています。

と、ここまでぼちぼち進んできた「まけないぞう」づくりなのですが、おかげさまで全国のみなさまにもご好評を頂き、最近では材料のタオルの方が品薄になってきました。

そんなわけで、全国のみなさまに、もう一度「一本のタオル」を送って下さるようお願いします。

集めているタオルは新品のもので、ご家庭で眠っているタオルから、地域や職場や学校でまとめて集めて下さっても結構です。

一人一人の力が集まって、価値ある仕事が提供でき、少しでも生活の再建に役立っていく。「一本のタオル」がこんな大きなスケールにつながるとすれば、関わる人全てが楽しくなれるのではないのでしょうか。

タオルの送り先は、

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5 仮設NGO

みなさまのご協力をよろしくお願いします。



全体会の報告

9月24日

10月8日

10月22日

ここ数回の全体会では、各団体の今後、仮設NGOの今後についての議題が中心でした。その中で、各団体が今後どのように活動を展開していくのかというところに焦点が当てられました。人的、資金的にも難しくなっている団体もあれば、助成金、寄付金などで何とかつないでいる団体もあります。そんな中でどのような連携ができるのかを話し合いました。この話し合いはなかなか結論が見えないため、今後も継続してこの話し合いを持つ予定です。

それからもう一つ。今、公営住宅の第4次募集が行われています。この募集が今月末に終了して、当選者発表。そこから浮かび上がってくる問題は、仮設住宅



の統合です。今の段階でもすでに始まっている所もありますが、残っていく仮設、残っていく人がこれから徐々に浮き彫りにされていくという懸念があり、その時にどのような支援が私達にできるのか、を話し合いました。そこでまず今の時点で考えられることは、私達が関わっている現場の中であがっている声、事例などをまず集約すること。そしてその中から見えてくるもの、疑問などを行政に提出していくこと。これがまず私達に出来ることなのではないかということで、次の全体会（11/12）までにその声を集めていくことになりました。

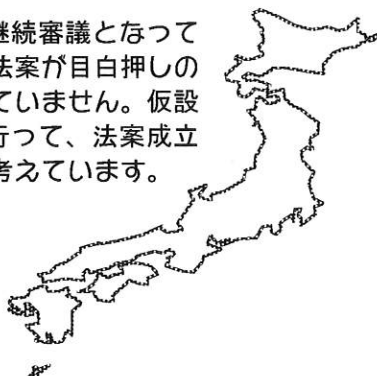
今後、この動きが活発になっていけば、行政と民間との連携という、一つの流れを作ることができるようになります。そのためにまず出来ることから進んでいくことになりました。

提言・提案チームから

国会が9月29日から始まり、参議院で継続審議となっている「災害被災者等支援法案」は、重要法案が目白押しの今国会の中で、いまだ成立のめどは立っていません。仮設NGOでは以前から引き続いて署名集めを行って、法案成立へ向けて最大限の活動をしていきたいと考えています。

私は岡山県に住むものですが、

災害はいつ自分の身にふりかかってくるかわかりません。私もいつ被災者になるかわかりません。もし、被災者になったとき、何も公的支援がなければ私はどうなるか、家族もどうなってしまうのか心配です。



「ぐるつぶ・えん」に寄せられた、公的支援を求める全国からの声を紹介します。

私は神奈川県に住むものですが、

阪神・淡路大震災が単なる自然災害ではなく、戦後50年をかけた日本社会が築き上げてきたものによる人災の要素を持った災害である以上、国家による支援の手が差しのべられて当然であると思います。未だに人間の生活が戻らぬ被災者にとってだけでなく、これから、いつ、どこで起こるかわからない大規模災害の予備軍たる私たち一人一人にとり「公的支援」を制度化し実現することが必要なのだと思います。私達の権利として、税金をそのために有効に使って欲しいと願わずにはいられません。

仮設、なお27400世帯 阪神大震災きょう1000日

6,400人を超す犠牲者を出した阪神大震災の被災地は、12日、発生から1,000日を迎える。今も仮設住宅には約27,400世帯、公園など旧避難所にも145人が暮らし、仮設住宅の孤独死は174人を数える。いまだに再開できない中小企業や商店も多く、被災者や企業間での「復興格差」が広がっている。

兵庫県は現在の仮設入居者のうち、すでに公営住宅に入居が決まった人や持ち家を再建した人を除くと、公営住宅希望は半数の約14,000戸と見込む。受け付け

中の災害復興公営住宅の第4次募集（約17,200戸）では供給可能だが、希望する立地条件などとの不一致も予想され、仮設からの移転完了は、県が目指す1998年上期からずれ込む可能性もある。

県と神戸市は4月から、公営住宅などへ移った高齢者世帯などへ再建支援金を支給。子どもの教育費などの負担の重い中高年層にも近く自立支援金を支給する。

しかし、国の公的支援を求める「災害被災者等支援法案」は、成立の見通しは立っていない。

《仮設は今..》

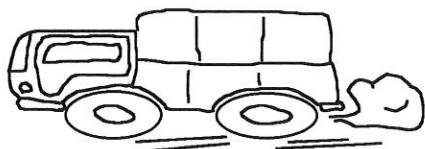
豊中市編

10月の初めに、引っ越しの手伝いをする機会があった。昨秋頃から仮設住宅から復興住宅への転居が増え始め、この日の引っ越しも豊中の仮設から川西の公営住宅へのものだった。

大阪府の豊中市は伊丹空港(大阪空港)の東の街で、この服部緑地という大きな公園にある野球場に、仮設のプレハブが並んでいた。

並んで「いた」と過去形になるのは、すでにここではプレハブの撤去が始まっていて、12月いっぱいでは閉鎖されることが決まっているからだ。274世帯がいたこの仮設も現在は40数戸が残るのみ。無人となった棟から撤去が進み、仮設団地のプレハブの列がくしの歯の欠けたようになっていた。

「2年も経つとずいぶん物が増えるもんやなあ」とは引っ越しの依頼主のため息まじりのつぶやき。布団にTVに衣装ケースにタンス、台所用品その他諸々……最もこの日一緒に来ていた友人によると「今日は楽な方だ」ということで、じっさい荷物の積み込みは20分もかからぬ内に済んでしまった。2年間の暮らしの舞台を離れるにしてみれば、拍子抜けするほどあっさりとした出発だった。



転居先の川西市は、阪神地区の中では少し北に寄った所にある。そのさらに北の山を切り開いたニュータウンに新居となる公営住宅が建っていた。依頼主がもともと住んでいたのは西宮市の中ほどだったそうだから、ずいぶん環境の違うところでの生活となる。新築まもない公営住宅はとてもきれいで、周りの景色も緑豊かで、それだけ見れば決して悪い住まいではないような気もする。でも、荷物を運びながらおばさんのつぶやいた「ここは冬が寒いそうやから」という言葉が、なんだかちよつぱり重たかった。

神戸市内では9月末に須磨区の友が丘仮設をはじめ3か所の仮設住宅が閉鎖された。服部緑地仮設では年末までに自宅や公営住宅の再建が間に合わない数世帯が、兵庫県内の仮設への転居、つまり仮設から仮設への引っ越しを強いられることになる。

借り上げた民有地の契約切れや、入居者減少による過疎化……いろんな要因があるにせよ、まず考えるべきなのは「仮設住宅の解消」ではなく、そこに住んでいる方々の「生活」だと思う。

三度目の秋真っ直中の出来事でした。

(仮設NGO事務局・福田和昭)

全日本仏教会バスツアー報告

先日16日、長田区の県立文化体育館にて全日本仏教会の創立40周年記念大会が行われました。このイベント、内容は法要があり、法話があり、落語がありというもので、このイベントに仮設にお住まいの方や、公営住宅に移った方々を招待しようということになり、約26カ所、17台のバスを出しました。このイベントにご協力いただいた団体の皆さん、本当に、本当に有り難うございました。

このイベントが終わってから、たくさんのお電話、お手紙を頂き、皆さんに本当に喜んで頂けたなあという実感がわいてきました。思った以上の反響に、私達はただビックリするばかり。久々に行ったこのイベントで、私達サポーターの本質的な役割はこれなんだ、これを忘れてはいけないんだ、なんてことを思った今日この頃でした。

その前日の15日、「もやい」横の空き地にて、下関から来て下さった唐戸魚市場の方々がふぐ鍋の炊き出しをして下さいました。これも全日本仏教会からの提供で、ふぐ鍋2,000食分。これだけの鍋をちゃんと配りきれぬか、とつても心配でしたが、なんてこたあない、始まってものの1時間で全部終わってしまいました。あとから来られた方はもう呆然。

「あんなにいっぱいあったのに、もうないの??」なんて不思議な顔をされながら皆さん帰られました。ふぐ鍋が当たらなかった方々、本当にごめんなさい!!でも、久しぶりにこの活動の原点を垣間見た2日間でした。

(仮設NGO事務局・鈴木隆太)



未使用

テレフォンカードく・だ・さ・い

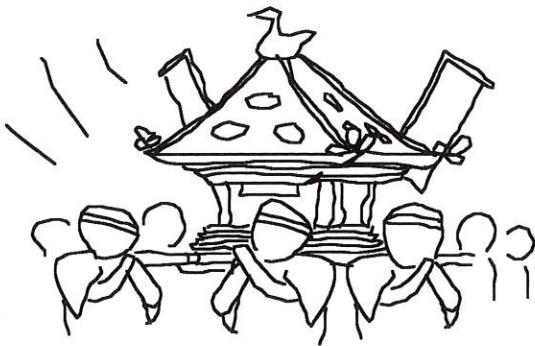


共創・共生
センター

もやい

9月23日の秋分の日、共生・共創センター「もやい」のオープンイベントということで、「もやいまつり」を行いました。指圧や足湯のマッサージのサービスや、手製の演奏会、そして街の人とボランティアとでおみこしを繰り出し、近くのケアセンターや病院、仮設住宅を訪問しました。

当日は予想以上に多くの方がいらして下さり、たいへんな盛況でした。おみこしも街の各所で歓迎していただき、まずまずの滑り出しだったかな、と。



長田に被災者の共生・共創センター「もやい」 生きがいつくりの支援めざして開設

被災者の手作り商品の販売などを通して生きがいつくりを支援する共生・共創センター「もやい」がこのほど、神戸市長田区御蔵通5にオープンした。仮設住宅で暮らす被災者がデザインした象のタオルグッズ「まけないぞう」を、オリジナル商品として制作する作業場も併設。被災者やボランティアのコミュニケーションの場としても活用していく。(9月)23日にオープン記念イベントを開く。

阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会が、ボランティア4団体の協力を得て運営する。事業費はカンパなどで集めた300万円。プレハブ2階建て1階の約130平方メートルを利用し、船をつなぐ「もやい」に、多くの人が共同で仕事をする願いを込めた。

仮設住宅から公営住宅への移転が進むにつれ、住民は「取り残された」という思いを強くする。そうした人たちに生きがいとしての「仕事」を創造するのが狙い。主な事業は象のタオルグッズの販売で、全国に呼びかけて集まったタオルを材料に、仮設住宅で内職し、センターへ移設の作業場で制作する。飾りものや、手ふきにも利用できる。

ほかに、神戸、西宮市の仮設住宅で、被災者がつくったビーズの置物やアクリルたわしも販売。被災者が製作した商品の売り上げは本人に還元していく。

また、フロアの一部に畳を敷き、交流の場として活用してもらう。午前10時～午後6時半。日曜、祝日定休。ボランティアも募集している。

オープンイベントは(9月)23日午前10時から。午後1、3時の2回、おみこしが地域を練り歩くほか、オカリナとオーストラリアの楽器「ディジュリドゥ」の演奏会や、指圧での足マッサージもある。

問い合わせは同センター(☎578・6921)

(神戸新聞・9月23日朝刊)

被災者の交流・仕事に活用を センター「もやい」開く

被災者らの交流や仕事づくりに利用してもらおうと、阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会が、神戸市長田区御蔵通5丁目に「共生・共創センターもやい」を開いた。

「もやい」とは「船と船をつなぎあわせること」で、転じて協力して仕事すること、共同という意味がある。気軽に集まって情報を交換し、手芸品をつくって販売、生きがいと生活の糧を得てもらったりする目的で9月1日に完成した。

床は板張りでゆったりした造り。古着や作業所などでつくられた手作り品を販売するほか、イベントやボランティア活動、求職の情報を掲示。作業所や畳敷きのスペースもあり、簡単な機織り「さをり織り」の機械を備えた。

今の主力商品はタオル製品の「まけないぞう」。神戸市のボランティア「ぐるつぶ・えん」の呼びかけで全国から集まったタオルを縫って耳や鼻をつくり、ボタンで目をつけた物で、1個400円。

今後は着付けや手芸品の講座も開く予定。また、気軽に来てもらうきっかけにと月1回の割合でイベントをする。10月は15日に正午から、ふぐなべ3,000食の炊き出しを計画している。

午前10時～午後6時半、日曜、祝日定休。問い合わせは同NGO連絡会(078・578・6921)。

(朝日新聞・10月14日朝刊)

ふだんの「もやい」は、被災者の方が制作したグッズの販売と、衣類を中心とした品揃えのリサイクルショップ、畳の間のコミュニティスペースを中心とした運営をしています。

役場に近いという土地柄もあってか、平日のお昼休みや夕方の時間帯に立ち寄る人が多いようで、最近は「手芸教室みたいなのをやってくれへんかな～」なんて声も寄せられるようになりました。

作業場のスペースでは、以前から在日ベトナム人の方たちが靴の内職をしています。また被災地の仕事づくりの一環として「まけないぞう」製作の講習会も何度か行ってきました。

9月1日のオープンから2か月弱。ぼちぼちゆつくり、いい場所を作っていけたらと思っています。



朝鮮民主主義人民共和国・緊急救援活動

～第2次訪朝報告～

以前から「じゅりみち」で継続して呼びかけている朝鮮民主主義人民共和国への緊急救援活動。10月3日～11日の一週間、事務局長の村井くんを団長として7月に続く第2次訪朝団を派遣しました。今回の支援では、第1次訪朝団の経験を生かし、日本よりはるかに米価の安い中国で米を買い付け、朝鮮半島西部の平安南道の幼稚園・託児所・病院への食料支援を行いました。

以下、訪朝団長の村井くんからの報告です。

共和国入りしてまず感じたのは、延々と続く水田の多くは稲作が終わり、小さな稲の山が至る所に見え、「やっと収穫も終わりに近づいている。」ということだった。同時に心配なのは、早く脱穀してとりあえず貯蔵庫にでも入れないと、また災害が襲ってくるかもしれないということでもあった。それは今年の8月後半に朝鮮半島の西南海岸を、台風の影響による津波が押し寄せ、やっと草取りが終わった水田に海水が浸水し、107,000haの耕作地が被害を受けたことを知ったからである。被災者の一人は「水田に塩分が入ると、向こう5年位は稲作ができない。」と話していた。

急ぎょ視察コースに入れてもらったのは平安南道宿川郡（スッチョン）の開拓地で、ここの共同農場は農民を志願して働いていたが、その64所帯全てが浸水したようである。車窓から稲の山を見る度にその様な不安が募ってくるのは、共和国が94年の降ヒョウから95、96年の水害、97年の大干ばつ、そして今夏の津波と災害の連続であったからである。車窓から見えるもう一つの惨状は、トウモロコシ畑の死滅である。訪朝の間、畑に枯れたままのトウモロコシがそのままにされている姿を何度も見なければならぬのは、予測はしていたものの余りにも無惨な姿であった。完全に収穫が終わっていないので正確な数字はわからないが、約120万tの収穫減とのことである。

このような厳しい状況の中で一方安堵したことは、子ども達の栄養失調症が大分回復してきたことである。WFPとの懇談で頂いた資料によると、昨年の11月から今年の9月までの11ヶ月間で、米11万t、トウモロコシ36万tを含め約52万tの支援食糧が共和国に入ってきたとのこと。もちろん私たち実行委員会が2度にわたって送った食糧は、約120tにすぎないが、今回も幼稚園・託児所・病院を視察して「少しでも役に立ったのだ」と実感したことを、関係者を始め全国から支援していただいた皆さんにご報告したい。WFPのパーティニ一女史は4月に「5才以下の子ども達には早急に250g/日の

食糧を与えなければならない」と世界各国にアピールしていた。今共和国の食糧計画は、子どもには250g/日、大人には500g/日の配給に達していると水害対策委員会は言っている。私たちが今回視察した平安南道の新陽郡、北倉郡、大同郡3地区の郡委員会、幼稚園長、託児所長、病院関係者がいづれも、子どもへの配給は250g/日に達していると言っていたことと一致し、何よりもその回復状態をこの目で見てきたことも合わせてご報告したい。

しかし3地区の配給所を視察した限りではいづれも備蓄がなく、今期の収穫による配給が急がれることを実感すると同時に、私たちは継続した支援をさらに訴えたい。なぜならば、やっと回復しつつある今の状態を維持するには、少なくとも春麦の収穫が保障されるまでは備蓄が必要だからである。今からいよいよ冬の季節に入り、今期の収穫分だけでは相当量不足することが容易に推測できるからである。

今回の滞在中私たちは車窓より何度も、平壤市内の至る所で小・中・高校生のパレードや広場での大人達の集会や踊りの様子を目にした。10月8日、ホテルのテレビが金正日書記の労働党総書記就任を伝えたので、急拠金日成広場に駆けつけた。午後6時頃から始まった大夜会に約5万人の人々が集まり、総書記就任を歓迎し祝っている姿もしっかりとこの目に焼き付けてきた。平安南道新陽郡の水害対策委員会責任者が「今共和国は苦難の行軍である。」と言われたが、きっと全人民が力を合わせてこの困難を乗り越えるだろう。なぜなら、2～3カ月前には15～20%の栄養失調児がいたにも関わらず、この短期間でかなりの回復状態にまで達してきたことは紛れもない事実であるから。

私たちは12月に第3次訪朝をすることを決定しているが、その時には配給所に米やトウモロコシが山のように積まれているのが見れることを期待しながら、12月末まで第3次救援を呼びかけさせて頂いて、今回の第2次訪朝報告としたい。

(村井雅清)

さらに継続した支援の訴えを！

仮設NGOにはこれまで、12件82,500円の寄付が朝鮮民主主義人民共和国への緊急救援活動の資金として寄せられました。頂いた寄付は前述の通り、中国での食料買い付け資金や訪朝団派遣に伴う諸経費として活用させて頂きました。紙面を借りて改めてお礼申し上げます。

共和国の食糧事情は一時よりは好転したものの、今夏の干ばつや高潮など更なる災害もあり、相変わらず深刻な状況が続いています。報告文にもありますように私たちは12月上旬に第3次の救援活動を実施する予定です。継続した支援を行うために資金が必要となりますので、全国のみなさんに改めて支援金のご協力をお願いを致します。

郵便振込

<口座番号>

00970-7-39728

<加入者名>

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

※通信欄に「共和国子ども支援」とお書き下さい。

文通から広がる輪

3月から呼びかけて以来、被災地宛の子供たちの手紙が続々と届いています。

新聞、テレビ、ラジオを通じて、全国の小中学校に被災地の高齢者との文通の呼びかけをしたところ、現在までに、全国数百人の子供たちから、のべ千通余りの温かい手紙が届きました。文通サークルも十数カ所にできました。

毎週通っている西代仮設では、この2年半で25名の方が亡くなり、自ら命を断った方もおられます。ここまできてはもはや、今後に自力で希望ある道が開ける可能性のある方は皆無、と言っても言い過ぎではないと思います。心がすり切れてしまっています。社会の冷酷さにこごえついています。

子供たちの手紙は一条の灯(ともしび)にも似たものがあります。

受け取られた方々は、いつも手元において大切にされています。なにも心をうるおすものがなくなった今、この最後に残った灯(ともしび)だけは絶やしたくない、という思いで、一通一通手元に届けています。

文通文集も作っています。被災地の小中学校に託して、子供たちに地元の高齢者や、仮設、避難所、病院などに配ってもらいます。子供たちとお年寄りのつきあいが芽生えて、日常の中でお互い話しかけ合えれば……。

被災した子供たちもまた、傷は複雑で、心のケアは難しいといわれています。毎日、ゆるやかにいやされる必要があると思います。

5年、10年とこの営みを続け、長くゆるやかに地域のコミュニティを造っていけば、やがて散り散りになっていく方々の、フォローとネットワークづくりにもつながっていくのではないのでしょうか。

被災した方々、すべてをなくされた方々にとっては、一生震災は終わりません。

わたしたちもそのかわりにおいて、長い長いつきあいを続けていくつもりです。仮設に春は来ません。散り散りになっていく一人一人の心に春が来るよう、できることから続けていきたいと思っています。

コリアボランティア協会 鄭 炳熏(チョンビョンフン)



「ふらの収穫祭」

じゃがいもプレゼント

男爵じゃがいも：畑で取れたそのまま大きい小さいの4キロプレゼント。

日時：10月31日(金)まで

送料・箱代：1300円

(じゃがいも本体は無料、送料・箱代のみ)

申込受付：10月末日まで

問い合わせ：十勝山麓野菜村

〒071-05 北海道空知郡上富良野町南町2

TEL：0167-45-2168 FAX：0167-45-9707



『まけないぞう』展示会

被災地の仕事づくりの一環として始まった「まけないぞう」の展示会を、神戸市の王子動物園のホールを借りて行います。

当日は会場内にたくさんの「まけないぞう」や、「一本のタオル」と共に寄せられた全国からのメッセージの展示。またアニメ映画「ぞうのいない動物園」の上映も行います。みなさんぜひぜひご来場下さい。

日時：11月2日(日)・3日(祝) 10:00~16:00

場所：王子動物園ホール(神戸市立王子動物園科学資料館内)

問い合わせ：仮設NGO

TEL：078-578-6921 FAX：078-578-6923

※会場への入場は無料ですが、動物園への入園料が必要です。

当日、会場で「一本のタオル」の募集も行います。

フェスタin湊川

被災した障害者を支援する第4回「フェスタin湊川」を開催します。当日は共同作業所や福祉団体・ボランティアグループの模擬店や、ステージでのライブ、作業所などの活動紹介コーナーや市民参加のフリーマーケットなどを行います。みなさんぜひぜひご参加下さい。

日時：11月8日(土) 11:00~16:00

(雨天時は11月9日(日)に順延)

場所：湊川公園(神戸市兵庫区)

問い合わせ：「フェスタin湊川」実行委員会

TEL：010-079-5014(児玉)

FAX：078-682-8279



KFCにほんごの会

～あまきつり～

KFC日本語ボランティアの会で、日本語を学習する人とそれを支援する人たちとの交流のお祭りです。秋の午後のひとときを各国の料理やゲームで楽しく過ごしませんか。ぜひ、お知り合いをお誘いの合わせの上で参加下さい。

日時：11月9日(日) 12:00~

場所：カトリック鷹取教会

問い合わせ：KFC日本語ボランティアの会

(神戸市定住外国人支援センター内)

TEL・FAX：078-736-2987



『としっこひろば』で

いっしょにあそぼう!

『としっこひろば』では毎週、子どもたちからお年寄りの方までみんなで楽しい時間を過ごしています。興味のある人は遊びに来てね。

- ・アジアのおもちゃやゲームがいっぱいあるよ!
- ・アジアの本がいっぱいあるよ!
- ・楽しいイベント(不定期)をやってるよ!
- ・10名のスタッフがお待ちしています!

日時：毎週日曜日 13:00~17:00

場所：聖公会長田センター

(神戸市長田区御蔵通6丁目162)

問い合わせ：聖公会長田センター

TEL：078-576-8448 FAX：078-576-8442